

北ア 一難場山、蒲原山（北東尾根）

【日時】2013年1月12日(土)～14日(月)

【メンバー】中村(L)、手嶋、木下、前田(奈)、長谷川(じ)

昨年3月に、木下さんがリーダーで木地屋から入るこの山域のスキールート開拓が行われた。その時に行かなかった一難場山と、東面に足を伸ばす計画を組んでみた。雪の多い山域なので、前日につけたトレースを最大限活用する計画とした。

1日目：木地屋～杉ノ平BC～一難場山

木地屋の最終人家近くの除雪広場に車をとめて出発。林道の除雪終点には2台の車が駐車してあった。トレースが付いていると思いきや、堰堤近くの崖にボードらしき人の姿が見える。スキー場でやればよいのと思いつつ、トレースは利用させてもらう。しかしトレースは右往左往していて、結局自前のトレースをつけることに。

林道が大きく右にカーブする辺りまで、ボードのトレースが入っていたが、その先はノットレース。静かな山が楽しめそうだ。急斜面を登り台地に上がると杉ノ平。名前に反し、キレイなブナ・ミズナラの林となっている。沢の渡渉を考慮して、地形図の橋の辺りに行ってみるが、橋はかかっていた。スノーブリッジがなんとかありそうな積雪量だったので、ここにテントを張ることにした。



杉ノ平BC

不要な荷物はテントにおいて、一難場山を目指す。北西尾根に取り付く辺りで、ちょうど良いスノーブリッジが架かっており、これを利用して対岸に渡る。

途中1100～1200m付近が急であるが、前田(奈)さんがジグを切ってくれた。朝は快晴だったが、北ア主稜線が霧で見えなくなったと思っていたら、見る見る間に天気が悪くなり、小雪が舞うようになった。山頂から北に伸びる平らな尾根に乗ると、山頂まではあと少しである。

山頂に着くころには吹雪となってきたので、写真だけ撮って、滑り出しポイントまで、シールをつけたまま戻る。滑走準備をしていたら、天気が回復して、視界も良くなる。滑走はやや藪っぽく、快適とは言えないが、まあ滑れなくはない程度。途中、中村がスピードを出しすぎ、転倒と同時に肩を立木に打つ。大事には至らず。

夜は風が強く、遠くでは風の轟音が鳴り響いていた。しかしテン場は、地形的に、あるいは樹林に守られて、ほとんど風は吹いていなかった。水場、雰囲気、風よけともに最高レベルのテン場だった。

2日目：BC～一難場山～蒲原山～北東尾根滑走～BC

昨日付けたトレースを使い、40分くらい早いペースで一難場山に到着。今日は快晴で、後立連峰最北部の雪倉、朝日が良く見える。さらに北の五輪山の美しい斜面も良く見える。昨日は何も見えなかった一難場山は、まさにこの景色を見るための展望台といった場所だった。



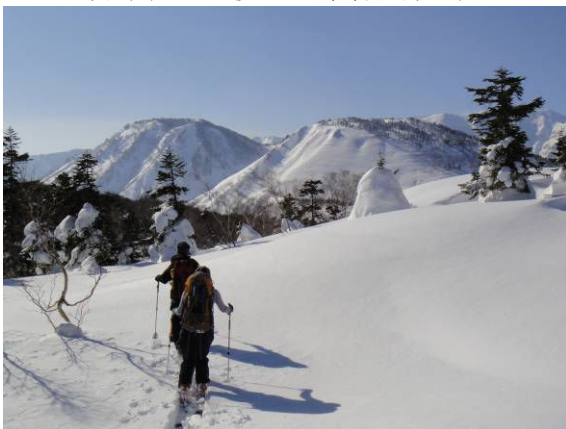
一難場山から後立連峰最北部の山々

今日はここから新たなトレースを付け、蒲原山を目指す。そこから滑る予定の蒲原山北東尾根が左手に見えてくる。ブナが点在しており、快適な斜面のようで期待が膨らむ。

蒲原山は双耳峰となっていて、手前の1629Pと本峰の間は、広い雪原となっている。

今回のメインイベントである蒲原山 北東尾根滑走。最初は斜度がないが、だんだんと斜度が出てくる。1420標高点付近に平らな箇所があり、ここで一休み。後半はさらに斜度が増す。眼前には雨飾山が迫って来て、ロケーションも抜群だ。全体を通して、パウダーを滑るには申し分ない尾根である。

楽しい時間も、尾根が藪っぽくなる1150mで終了。今日は滑った分だけ登らなくてはならない。シュプールを上手く利用して登ると、



蒲原山より箆岳と横前倉山

意外と早く登り返すことができた。

1420の平に付く頃には、先ほど見えていた雨飾もガスに覆われるようになる。さらに山頂を目指し登り始めると、この尾根もガスに覆われる。山頂に着くころには小雪も降ってくる。

視界が50mくらいしか利かないが、GPSを頼りに北面を滑ることにした。雪、斜度、木の間隔は快適であるのだが、視界がないので一気に滑ることができない。地形図

で見ると左には深い沢型があるので、1192標高点に向けてやや右寄りに下りていくことにした。この視界ではルート取りがなかなか難しかったが、何とか無難な尾根を下りることができた。

1192付近は段丘状の地形になっており、斜めに高度を下げながらトラバースしたいところだが、それができない。仕方がないので、ほぼ水平にトラバースし、一難場山につけたトレースの尾根を目指す。GPSだけを頼りに進むが、無難なルートでトレースに出る。雪はすっかり悪くなり、とにかくテン場を目指した。



蒲原北東尾根の滑走（中村）

3日目：BC～木地屋

実は、昨日の北東尾根滑走で十分に満足してしまい、昨夜の時点で、良くない天気予報から、今日は下山するのみと決めていた。なので、少々朝寝坊しての6時起床、8時出発。

登りは1時間半かかったが、帰りは30分。本当に、スキーは楽チンだ。



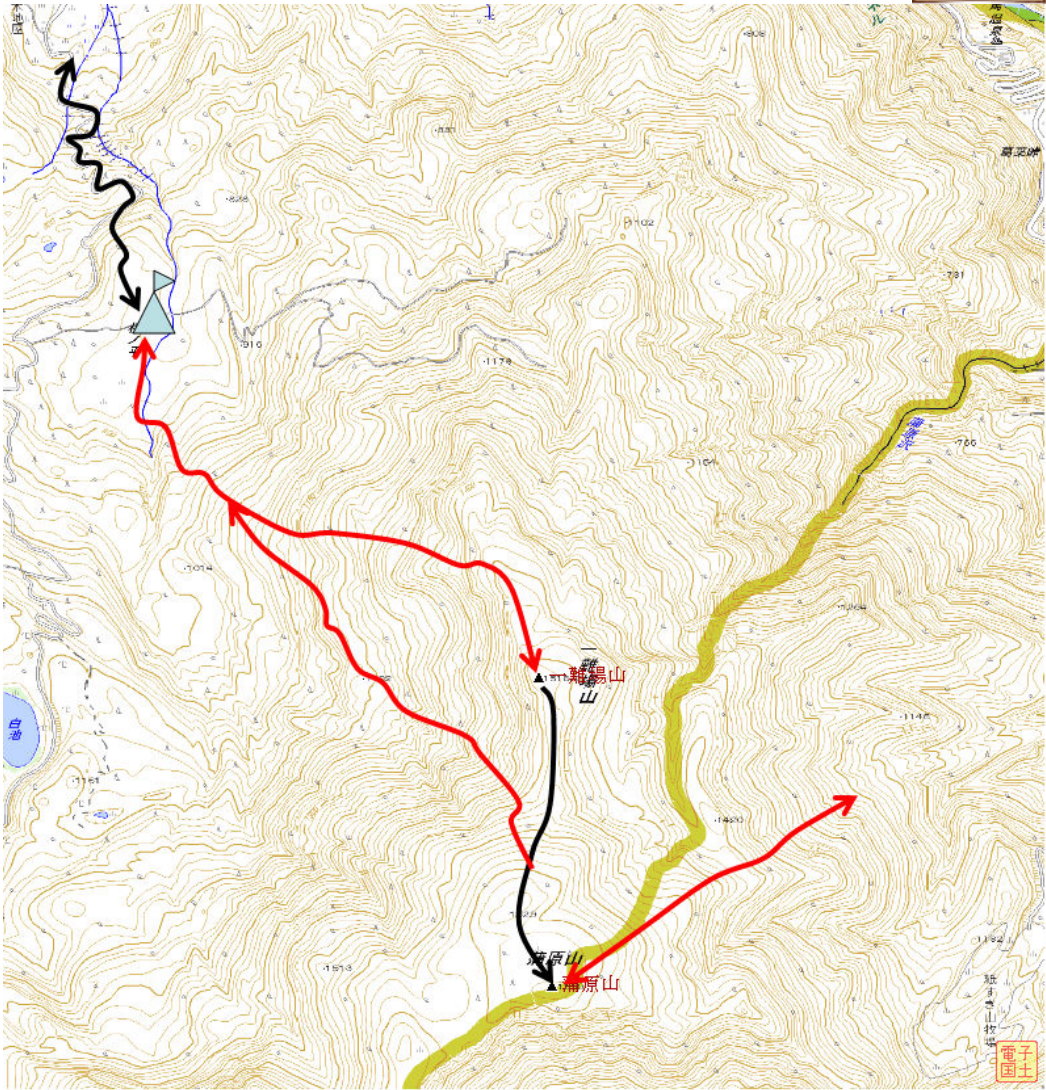
蒲原北東尾根の滑走（木下）

下山後、来馬温泉で温泉＋そば1000円を食べる。携帯で、帰りの道路状況を見てみると、長野ICから碓氷峠を越える辺りまで上信越道が通行止め。下道で碓氷峠を越えるのは大渋滞必至。少々遠回りにはなるが、糸魚川ICから雪に強い北陸道＋関越道（長岡経由）で帰ることとなった。

関越トンネルを越えるまでは順調だったが、その先が結構大変だった。結局、私が神奈川の家に着いたのは、日が変わる頃。小谷村を出たのが昼12時だったから、12時間の車移動だった。でも、この日に帰京するパーティの中では、最もましだったようだ。



蒲原北東尾根の滑走（奈映）



【地形図】越後平岩

【行程】

1日目：木地屋(8:55、640m)～杉ノ平BC(10:20/11:05、870m)～一難場山(14:40、1518.2m)～BC(15:50)

2日目：BC(6:50)～一難場山(9:45/55)～蒲原山(10:50/11:20、1630m)～北東尾根滑走1150m(11:55/12:15)～蒲原山1629P(14:30)～BC(16:00)

3日目：BC(8:15)～木地屋(8:45)